動ニ際シテハ強制的徴発ヲナスヲ要ス

3、北支ニ向ヒ行動スル場合ニ在リテハ自轉車ヲ使用スルヲ可トス

4、補助看護兵ハ行動ニ先タツ軍隊之ヲ掌握スルヲ可トス

5、獨立部隊ノ出動ニ際シテハ事前ニ連絡協同ニ就イテ

六、飛行機トノ連絡協同

1、本行動間飛行機ハ豫期以上ノ成果ヲ挙クルヲ得タリ

2、飛行機トノ連絡開始時期ハ概ネ地上ヨリ飛行機ノ視体ノ目ノ丸ヲ看得タル時期ニ於テ飛行機ヨリモ地

土布板ヲ看讀シ得ルコトヲ銘記スルヲ要ス

3、連絡用布板類ハ出動部隊ト殘留部隊トノ為ニ二組ヲ準備スルヲ要ス

4、通信筒釣取リ位置ハ飛行機ノ進入及離脱方向ニ樹木等ノ障害物無ク平坦ニシテ前後ニ百米余ヲ可トス

釣取リ通信筒ノ間隔ハ十米以上ニ為シ一回ニテ釣取シ得ル如ク準備スルヲ要ス然ラサレハ飛行機冷却器ノ水温若シクハ高昇スルヲ以テナリ

四、無電ニ依ル通報報告ニ就キテ

通信時間ハ制限アルヲ以テ報告通報ハ簡略化シ
得ル時間ヲ務相其ニ手先ヲ考慮シ且ツ復通信トシテ飛
行機ニ依ル釣取報告通報ヲ為スヲ要ス

五、交渉ニ就キ

交渉ハ飽迄強硬ニ為シ相手ノ弱点ニ向ヒ徹底的ニ為
スヲ要ス

六、土民ノ宣撫ニ就テ

イ、傷病人ノ療養ヲ為シ宿舎料ノ如キハ毎月
支拂ヒ細民ニ對シ救済ヲ為スヲ可トス

七、経理ニ就イテ

イ、出動ヲ考慮シ独立部隊ニアリテハ前途金ノ外ニ少々宣千圓ヲ保管シ置クヲ要ス

2、天津地方ニハ天津出アルヲ以テ出来得ル限リ現地調辦ヲナスヲ可ト

3、陸軍給與規則ノ大要ハ下士以上ニ教育シ置クヲ可ト

八、衛生ニ就イテ

イ、隊醫板ノ運搬ハ駄載ヲ可ト然ラサレハ内容ノ破損多々且ツ山地ニ行動シ得ス

2、施療ハ地方傳染病、地方病ヲ研究スルニ有利ナルノミナラス他方面ニ於テ皇軍ノ恩威ヲ識ラシメ民心ヲ安定セシムルニ有利ナリ

九、其他

イ、北支那ニ於テハ夜間各部落ニ於テ自衛ノ爲絶ヘス射撃スルヲ以テ誤認セサルヲ可トス

2、本行動間上司ノ慰問品並ニ飛行機ニ依ル書簡類投下ハ將兵ノ奉公ノ念愈々堅クセリ

其之本行動間情報

下營

情報

一、飛行機ヨリノ報告ニヨリ

派出二大隊警報并一報

陸海警備隊情報

五月十日午前八時

(一)興隆部隊及馬蘭坪部隊ハ九月午后六時下營ニ集結
終ル但シ馬蘭山砲兵隊及大行李ハ道路険悪ノ為下
營東南方十二吉村大平庄ニ殘置シアリ
(二)當地公安分署長ハ昨夕早朝蔡麟麟ニ召集セラレ不在
ナリ
(三)下營附近ノ住民ハ動揺ノ色ナク安堵シアリ
(四)昨九月來在下營蔡麟茅ハ区長兼青年團長ヲシテ

左ノ件ヲ折衝シタルアリ（大綱ノミ提示セリ）

イ、犯人ノ處分

ロ、正式謝罪

ハ、移駐

(五) 薊縣々長ハ飛行機飛來ト共ニ北平ニ行キ本十月午後四時ニ歸還ストイフ

(六) 公安局員其他ニ依レハ城壁上ニ鈔ヲ携行シ立哨シアルハ保安隊員ノミナリ

(七) 薊縣駐在保安隊長徐廣林（馬蘭營、薊縣、遵化ノ指揮官）ハ要人ヲ介シテ折衝シタルモ態度不誠ナリ

(八) 諸情況ヲ綜合スルニ我ニ射撃セシハ保安隊員ナルヤ確實ニシテ

交渉セルモ言下ニ一蹴シ豪慢ナリ

(九) 前縣自衛團員ハ好意ヲ有ス

(十) 前縣ヨリ長代理徐仲良ハ日本軍ノ要求ニ對スル回答ハ本日

タニナスト言明セリ

(十一) 前縣内ノ排日宣傳文ハ大部分急據取除キアルモ一部ハ持

チ來レリ

(十二) 前縣公安隊保安隊自衛團ノ所持セル兵器左ノ如シ

自衛團

| | | |
|---|---|---|
| 平時 | 自動短銃一二 | 四大 |
| 急ノ場合 | 所ニ 迫擊砲 二 | 八〇〇〇 |
| 全縣集合ノ際 | 小銃 二〇〇〇 | 五〇〇〇 |
| | 應急 五〇〇〇 | |

保安隊　　徐廣林

第一大隊（一中隊欠）兵力　一五〇名

遵化ノ一中隊モ急ヲ要スル場合ハ百ヲ以テ集合シ得ルナリ

彈藥ハ相當アル見込　輕機五、

公安隊

自衛團ハ市内一ト云フテ誤リ居レリ

(一)事件責任者ハ公安局員ニ非ラスシテ保安隊ナルト雖モ然ルニ前述ノ如ク當該責任者タル保安隊長、豪慢不遜ナルヲ以テ或ハ戰鬪手段ニ訴フルノ止ムヲ得サルヘシト判断セラル

(二)前劇縣保安隊ハ順義駐屯非戰之第二終隊長、錦下ニ

属シ縣長トハ常会席統裏ヒラメテ殷汝耕ハ下ニアル
縣長ノ成合ハ行ハレス
(三) 縣長歸休後月人ハ仲介者トシテ保安隊長以下ニ當
方ノ要求ヲ容レシムルニカメントスルモ一歩進メ保安隊長ノ處罰
同隊ノ移駐ヲナサシムルコトハ小宣ニ於テハカ及ハサルヲ以テ
御指示ヲ乞フ
(四) 保安隊長ニ對シ壊力行使セントセハ彼縣城内ニ立
籠リ相當ノ抵抗ヲナスモノト思料セラル
萬一縣攻撃ニハ飛行機ノ協力アラハ現兵力ヲ以テ十分
ナリト判断ス

若シ順義第二非戰之終ニ際ヨリ增援セハ戰場ハ擴
大セラルヽニ付キ考慮セラレ度シ

派歩第六五下營情報第二號　昭和九年五月十日
于前莊後下營五本部

一、密偵ヲ前蘇城ニ派遣シ保安隊及民心ノ動靜ニ探
索シツヽアリ

二、密偵ヲ派シ更ニ多クノ確証ヲ獲取スヘク下ニ努カシツヽ
アリ

三、前蘇城ニ貼付シタル排日宣傳文ノ一部更ニ八手セル
モノ別紙ノ如シ

四、下營住民ノ宣撫ノ爲別紙ノ如ク宣傳文ヲ貼布セリ

五、前蘇公安局次席高保雲下營ニ來訪セルヲ以テ一般民

ヘヲ慰撫スル様傳言セリ

六、承德ー鹿潼ー下營ー薊州ヲ通ズル道路ハ幸ヒニテ野砲及自動車ヲ通過シ得(無電班ハ承德ヲ自動車ニテ下營ニ到着ス)

七、飛行機ヲ通信筒ハ全部破壊シ爲ニ狀況ヲ詳カニシツツアリ

八、無電班及宣撫班ハ本日午前十時到着ス

宣傳文

薊縣一帶ニ貼布セル宣傳文(薊縣時間報)

一、英國傳稱日本對我之堅持要点

八、承使滿洲國

2、承認日本在華之特殊利益

3、中国未經日本之許不得之外國訂立借款合同

4、中国得接收日本之援助與合作

5、中国海陸空軍不得聘外国顧問

二、日偽在臨檢設大同公司凡出関有須由該公司講

滿洲国入国證

三、濟儀宮日均換人行動更不得自由

四、王由民國法即解散省府對於王兼考免究馬蘭峪方

面日軍已次陰妥協不如干涉

五、日本謀侵華南益亟欲強佔厦門為海陸根據地

于好逑其(係被裁之軍官)為虎作倀在遼洲附近企

圖擴張

2. 日本對華方針將欲積極採用外交力量經解決應
宗我當局正研究適當之應策
3. 川六路軍攻擊三屏山贛匪欲壯丁幼童被驅作戰
4. 日俄有吉要求對蘇北投資官僚先於日領事橫山
又撤起狀告中國之風潮
5. 偽國派遣大批間諜入關偵察華北軍政情形又由
東北運來偽票五十大箱由某銀行在天津兌換
不知是何用意
2. 日本勢力擴展至菲洲引起意國疑懼
3. 日人對錫林果勒盟多方誘惑蒙民明大戒不為
所動
4. 交通部令郵局電東北局脫信件准予郵送惟
所貼偽郵花須塗毀
5. 川軍三面圍攻通江賀龍企圖竄鄂西贛西匪首

6.

給各向國軍投誠

第子文視察第一科農林科對農民疾苦訪問甚詳

為佈告事案按條如左

一、日本軍之明正大之旗世界上同彩之事也

一、日本軍抵武漢何等之他意讓民衆並無寸毫損

害

三、房租及以外損害必定閉文

四、民衆勿受造謠蜚語照舊安居樂業

五、假若得病困難有於日本軍衛生班施療可不取

今文以無論何人勿容氣赴衛生班療治也

以上之條特此佈告

昭和九年五月十日　大日本軍營(海)林田司令部

派遣ニ次ギ下營第五號　　昭和九年五月十日午前七時

十日午前零時半殷汝耕ノ使者トシテ稱スル康瑄ナルモノ

下營ニ来訪シ事件ノ真相調査ノ目的本庫ノ意見度旨

貴中述ヘタルヲ以テ次ノ如ク指示ヲ與ヘ直チニ帰還セシメタ

リ

事件ノ真相ニ就テハ今更調査ノ必要ナシ各責任者ハ

既ニ承知シアリ依ツテ本十一日午后九時迄ニ縣長保安隊

長等責任者ヲ當方ニ派遣シ我要求ノ三件ヲ速ニ實行

セサレハ断乎タル處置ニ出ズル旨嚴ニ言渡シタリ責任者

タル保安隊長ハ曩ニ陳謝スル如ク使者ヲ派シタルニ態度

豪慢不遜ニシテ之ヲ一蹴シタリ且本軍ハ尚且平和的手段ニ依リ次第セルニ該隊長ハ何等ノ返答ナク自下順義ニ逃レアリ熊長モ自軍飛行機ノ飛來トカ平ニ到リ既ニ遅セスシテ要求ニ責任有ハ保安隊長ナル下明瞭ニ言平和的手段ニ依リ再三校誡スルモ之ニ應セス自下薊縣ハ公安隊、自衛團、民衆ノ外責任有ル並ニ保安隊ハ金部代ニ避難シアルモノ如シ自下偵察中ナリ現在薊縣ニ對シテハ支隊、相手ナシ本夕刻ニ到ルモオリシラ謝罪シ來ラサルモノト判断セラル依テ上司ニ於カレテモ速カニ省政府ニ對シ嚴重抗誡セラレ度而後ノ行動ニツキ御指示ヲ乞フ

意見具申

一、通行人ノ言ニ依レハ前鎮海保安隊員ハ既ニ十月夕ヌ來避難中ナリト依ツテ目下調査中ナリ

二、保安隊不在トナレハ不敢敢萬熊ニ入城スヲ要ス

堀内

（交渉ニ應セサレハ断乎タル處置ニ出ツルハ自明言セル故ニ皇軍（成鏡）ヲ保持スルニ於テ必要ナリ

三、保安隊不在トナレハ戰鬪ヲ惹起スル虞ナシ

四、速カニ治安維持セサレハ民衆動揺スル虞アリ

五、王国保安隊ハ從来ノ関係上或ハ如何ナル行動ヲナサントス

ニ計リ難シレ

派兵ニ六四下營情報第一號　五月十一日

一、信天翁密偵報ニ依レハ薊縣保安隊ハ九日庚縣城東南（四吉米）東河套及西北二〇（三吉米）公樂亭高地ニ後退シ防禦態勢ヲ取リタリ

二、然ルニ同軍ハ薊縣ニ来ラサル為十日午后四時頃再ヒ城セリ

三、城壁門外警戒ハ厳次厳重トナレリ

在門人名（平常八二名）及城壁上三〇名ヲ置セリ

四、城内ノ住民ハ南方部落ニ避難セリ

五、住民ノ言ニヨレハ保安隊ハ麻城ニ集結セリト

六、公安局長（親日家）ハ我密偵ヨリ通シタル左件ヲ小官ニ

抵言セリ

イ、九月夜襲會議席上ニ於テ保安隊長ハ月軍ニ若シ我ニ

射撃セハ之ニ應戰セント豪語セリ

2、日軍ト衝突ノ際保安隊長ハ自衛團副團長ニ對シ

増援ヲ求ムルタルモ該團長ハ之ニ應セストノ聞答セリ

3、公安局ハ無論保安隊ニ援助セサルヿヲ宣明セリ

七、殷汝耕ハ北平日本公使ニ該問題ニツキ交渉シタル

銀軍ヲ通シ試銀事ハ日本國第軍ニ對シ下壹ニア
ル日本軍ノ徹退ヲ要求シアルニ就キ日軍ハ絶對ニ蘭
領ニ入ラサル事住民ハ業務ニ安ンジ又日ト敵汝耕ヲ
喪諾アリタルト
七、在蘭縣親日及日派左ノ如シ

縣長　宋明浩
自衛團長　李維舟
同安隊長　徐廣林

親日家

〃公安局長　路立中
日衛團副團長　孫漢卿

飛歩ニ云ヒ下営情報第九號　　昭十二年十月十日午前九時

一、昨十日午后九時二十分下営南方高地ヨリ我宿営地ニ向ヒ四發ノ射撃セルモノアリ其ノ中一發ハ大激本部ノ屋上ニ飛来セリ

目下捜索スルト共ニ警戒ヲ厳ニ為シツツアリ

二、昨十日夕六時頃便衣ヲ着セル怪ハシキ者六名下営西南河流ニ沿ヒ江マントセシモ歩哨ニ誰何セラレ校石逃走セリ

三、敵報我宿営地ニ射撃セシモノハ其者ナラント判断セラルヽ節多シ

四 事件発生ト共ニ所属ヲ派遣シ殺害犯人
ヲ捜索セシニ西井特務曹長ノ所候ハ不審家宅ヲ
求高地ヲ数十発ノ射撃ヲ受ケタルヲ以テ或ハ附近ノ土民
ノ通報ナリト謂フ セル状況ヨリ日本軍ハ下ヲ大聲
ニテ再三知ラシメタルモ尚射撃ヲ継続セリ続イテ
捜索セルニ土民ノ言ニ依レハ薊縣保安隊ハ下雑貨ヲ
戒ニ損害ナシ自下其確証ヲ得ルニ努メツツアリ
五 命ニ依リ大隊ハ厳ニ将兵ヲ戒メ隠忍自重上司ノ指
揮ニヨリ皇軍ノ威信ヲ失墜セサラン極事件ノ解決ヲ
待望シツツアリ

将兵一同志氣旺盛ニ名ノ差違モナシ
六附近住民ニ何等ノ不安ナク本日ハ恰モ市日ニシテ近在
リノ人出多ク雑踏ヲ極メツヽアリ
七本日午前十時下營附近要人ヲ迎ヲ皇軍慰問ト稱シ
酒、煙草、菓子、鶏、豚肉等多数持參セシモ其好
意ヲ謝シ返却セントセシニ再ニ銀貨請アリシヲ以テ此レ
ヲ精神的ニ享受スルコトトシ物品ハ金品ニ換ヘ附近細
民ヘ施ス様申述ヘ返納セリ
八宜撫班ハ本市日ノ人出ヲ利用シ治安ト効果ヲ擧ケ
ツヽアリ

九密偵並ニ不逞団ノ潜入ニ依ル不逆行爲ニ對シ厳重警戒シツヽアリ

十、指示ニヨリ憲兵分隊ノ連絡者トシテ数回中尉以下四名

前鮮ニ出発セシメタリ

派出ニ大皿下當情報第十號　五月十二日午後一時

一、昨十一日午後九時四分恒井所候ニ對シ射撃セシ件ニ

付劉家庄（下營東方四吉）住民ニヨリ調査セシ結果左

如シ

十一日午前八時頃拳銃ヲ携行セル前鮮保安隊員二名

劉家庄ノ路郷長（附近ノ自衛團長）ノ宅ニ赴キ午後
六時頃郷長ハ右保安隊及自衛團員十数名ト共ニ北方
ニ向ヒタリ（團員ハ全部小銃ヲ携行セリ）
劉家庄附近ノ住民ハ土日校ヲ逃走避難セリ郷長並
ニ自衛團員ハ未タ歸來セス行衛不明ナリ

薊

縣

情

報

派出二六五 薊縣情報第一號　五月十五日午前七時

薊縣自衛團重火器引上ニ関スル件

一、一般情勢

イ、薊縣自衛團ノ重火器所持ノ目的ハ主ニ保安隊ニ對スル

ル性ノ對抗手段タラシメントスルモノノ如シ

二、自衛團長李維周ハ從來ノ態度甚ニ今爾劉家庄

事件等ヨリ觀察スルニ秋日寂ナル不確実ナリ

自衛團副團長張漢卿（名稱ハ副團長ナレモ實力

ニ於テハ團長ト同格ニシテ現ニ兵有ハ勢力爭ヒヲ爲

シツツアリ）ハ諸情報ヲ綜合シタル結果親日家ナル不寂ナル

三、重火器ニ就テハ其性能ヲ研究シ其ノ機能ヲ判断セシム

三、現在迄ニ知リ得タル自衛團所有重火器ノ情況左ノ如シ

馬伕橋　軽機二、（自衛團長ノ談）
王家店　迫撃砲六、（王田重件ノ際該部落奪取セラレタル如シ）

大山王庄　軽機二、（自衛副團長談）

三、右ハ尚不確實ナルヲ以テ左ノ如ク探知手段ヲ講セントス

イ、自衛副團長ヲ説服シ之ヲ確實ナラシム

ロ、更ニ各地ニ密偵ヲ出シ之ヲ探知ス

四、前述一般情勢ヨリ考ヘルニ重火器引上ハ前鋒自衛

國ニ對シ最モ痛痒ヲ與フヘキ事ヲ目下自衛團長ノ態度ヨリ判斷スルニ興隆ニ持參セントノ如キ緩慢ナル手段ヲ以テシテハ到底實行不可能ナルヘク此際斷乎強制執行ニ依ラサルヘカラスト思惟ス尚玉田縣及薊縣ノ關係ニ鑑ミ薊縣ノミニ要求スルハ特手落ノ感アルヲ以テ兩縣同時ニ徹去スル如ク交渉セハ薊縣モ甘ンシテ持參スルニ至ラン之ヲ以テ上述ノ策ト思料ニアルモ玉田迄ハ手ヲ延ハス下ハ當歲ニ於テハ稍困難ナルヘク上司ニ於テモ手腕考慮セラレ度

五、一般民衆情勢

ハ宣撫班ノ活動並ニ布告文ノ配布施療等ニヨリ民心安堵皇軍ノ公明正大ニシテ正義ノ表徴ナルコトヲ一般民衆ニ了解セシメツヽアリ

二、民衆ハ日ヲ追フテ平常ニ復シ既ニ三分ノ二ハ開店セルノ情態ニアリ

## 兵歩二大隊前線縣情報第二號

五月十五日午前七時

保安隊兵器引渡ニ関シ目下採リツヽアル手段

一、前線縣々長及公安局長其他要人等ヲ仲介トシテ前保安隊並ニ新到着保安隊所持ノ重火器ヲ調査シ隠匿

ナル手段ニ依リ彼ニ提供ヲ提サントス

二、前保安隊ノ所持シタル重火器ハ軽機四、五挺ナルモノ如

其他ハ自動短銃、小銃ノミナリト目下調査中

三、新到菊保安隊ハ當部隊在薊中ハ入城セスト云ヒ

リシモ我部隊在薊中ニ到菊ニ如ク指導シツツアリ

四、本日午前十時頃當地本部ニ於テ新舊保安隊長

等ト會見所衛ノ手交ナリ（新隊長王占元舊隊長

保廣林）尚當會見ニハ殷汝耕カ特ニ此機會ニ將來

日本軍トノ関係ヲ圓滑ナラシムル為連絡者トシテ近々薊

縣保安隊ヘ配属セル曲世和ナルモノヲ出席セシム該人物

ハ、三十歳ニ達シタル青壮者ニシテ日本藩庫士官学校出身者ナリ

歩兵四聯隊第三號　五月十五日午前十時

薊縣自衛団兵器引上経過報告

一、自衛制圖長張漢卿ヲ招致シ之ヲ説得シ得タル情況左ノ如シ

イ、兵器ノ所在ニツイテ

イ、第一區（自己勢力範囲）ニ数挺ニ接ヲ用ス

ロ、第二區（国長勢力範囲）ニ於ニ及迫撃砲一ヲ有ス但シ道路ニ於ニハ單ニ噂ヲ聞キタルノミト

2、兵器引上ニ就イテ

自己勢力範囲タル第一區ノ重大要衝ニ就テハ軍ノ指令ニ從ヒ快ク之ヲ提出セント

尚第二區ニ於ケル重大要衝ニ関シテハ如何ナル為ニ能ハズト

3、陳情ニ就イテ

本人ハ熱河作戰當時ヨリ継続シテ巷間ニ一部ノ有力者ヲ買ヒ今日再ビ自己勢力範囲ノ兵器ヲ引上ケラルヘトスル部下三千人ニ對シ自己ノ信用ヲ失墜スルヲ以テ此ノ点日本軍司令官ノ考慮ヲ煩シ度ト涙ナガラニ陳情セリ

二、受命直後出発ス密偵ニヨル情報左ノ如シ

イ、自衛團長李維周ハ十月縣城内ニ入リ日本軍ノ來ル頃
時ニ天津ニ逃走ス
ロ、逃走ノ際輕機二ヲ馬仲橋副團長
王柄衡ノ宅ニ預ケ
タリト

3、迫擊砲ハ王固保安隊ニ奪取セラレタルカ如ク現在滿地
區内ニハ無キカ如シ

三、以上ノ情報ニ依リ歳置セ件左ノ如シ
イ、前團長ニ對シテハ汝ノ面子ヲ毀ケサルヲ保證シ自己ヲ預ク
ルヤウ約シ快タシカ提出ヲ命ス
2、自衛團長、勢力範圍タル井ニ區ノ重火器引上ニ就テ

テハ午十五分午后坂本少尉ノ率ユル八半小隊及憲兵隊ヲ以テ王柄衡宅ニ到ラシメ強制執行ヲ為サントス

第二六四 薊縣帶四號

舊保安隊重火器引上ニ関スル其二后経過報告

舊薊縣保安隊重火器引上ニ関シテ昨十五日実施報告

七月十六日午前九時

七月三日第二左記ノ如ク報告セシ

薊縣事件發生ト共ニ保安隊ノ重火器順次移セル

ノ如ク目下薊縣三河地在シアラス昨十五日午后新

舊保安隊長並ニ支隊連絡者トシテ派遣セラレヘキ曲世加

（日本陸士出身）ヲ招致シ我兵器ヲ提出スル如ク交渉ス
由也和ハ直ニ北平ニ歸リ殷汝耕ニ其旨ヲ傳ヘ
必ス約束通リ重火器ヲ持參スル如ク述ヘタリ今朝日中ニ
其間殺アル筈
自衛團ノ兵器ニ關シテハ停戰協定ノ趣旨ヲ第ト
了解セシメタル處昨朝自衛團副團長ハ自發的ニ
警機二挺ヲ我ニ提供セリ之ニ關連スル李團長ノ部下
馬仲橋ノ兵器ハ昨十五日現場ニ兵力ヲ差遣シ強奪
砲彈機關銃彈ヲ稱シ強制的ニ引上ヲ實施シ
其他ノ兵器モ目下調査中ナリ馬仲橋薊縣以外

二八此レ以上手ヲ延ハサセル義定ナリ

引上兵器ハ後日必ス亞却スルヲ含ミ居メアリ

意見

停戰協定地區内ノ兵器ハ撤去引上ハ此際可成速ニ

一般ニ期ヲ失セス實施スルヲ可トス

派遣ニ大田蔚備第五號　五月十七日午前九時

一、公安廳重火器問題及海ニ關スル覆命ハ昨十六日受領ス

貴下保安廳ニ對シ交渉ヲ續ケ本日午中ニハ回答アル筈ナル

旨新ニ申入レト稱スル重火器ハ撤去可否ハ相當難問題

ト考想セラル係ル場合ニハ速カニ師團ニ報告スヘキ事

承知相成度

二、自衛團ノ重火器ニ對シテハ所報ノ如ク軽機二、砲弾其他ヲ我ニ提供セハ是再件橋附近ノ自衛團(團長李維周ノ部下)ハ何處ニカ逃ヒ捜索不可能ナリ即チ民團ニ對シテハ團長李維周ヲ絶對ニ入ラシメサル如ク厳命シ將來日本軍通過時等ハ特ニ保護ヲ與フ

八、如ク注意ヲ與ヘ一先自衛團ニ對スル重火器問題ヲ解決スル而シテ爾后停戰協定ニヨハ翌日ヲ了解シ我共器ヲ提供セシムル如ク指導セリ

派遣二大隊斗蘭情第六號

五月十八日午前九時

五月十日午前八時迄ニ於テ保安隊兵器問題左ノ如シ

一、薊縣保安隊ノ重火器ハ既ニ順義ニ移シアリシ如クニセアリシモ内密調査スレハ一部ハ遵化ニ移動シアルモノ如シ

右ニ對シ保安隊幹部秘書曲世和ヲ通シ殷法耕ニ對シ兵器ノ引渡シニツキ交渉中作十七日午后北平公使館付武官柴山中佐ヲ坂庭大尉ヲ當地ニ派遣シ柴山中佐ハ意圖ヲ左ノ如ク述ヘタリ

二、坂庭大尉ハ發言要旨

イ、戰爭ヲ宣ス火器機械ニ關シテハ武官ニ於テ責任ヲ以テ

戰區外（通州）ニ支那側ノ自發的ニ募集セシムヘキヲ最善ノ方法トシ其以外ニ手段ナシ

2、貴軍カ直接兵器ヲ徹退スハ一面共一線ノ情ニ於テ然ルヘキモノナルモ大局ヨリ見テ却テ兵器ノ撤退ヲ不利ナラシメサルヤ

3、右ノ要旨ハ師團ニモ通報セシミヲキ其歩調ヲトセラレ度

著々共器ノ撤退ヲ實行ス可キトスト

三、小官ノ處置左記ノ如シ

ハ大局ヨリ見テ支那側ニ自發的ニ兵器ノ撤退ヲ實行セシムヘハ理想トスヘ處ナリ又黄郛主鎮タル殷汝耕ノ立

場モ考フル時ハ武官ノ案可ナリト信スルモ師團命令ニヨリ
出器ノ入手ハ皇軍ニ發砲セヘ直接責任者トシテ兵器ヲ
提供セシメテ可然ト思考ス
2、將來問題惹起セハ之カ解決ハ外交ニ訴フレハ何
ナリ解決スルモニシテ日本軍ハ外交ニ對シ何等威力ナ
キモノト彼達ニ思ハシムルハ不可ナリ
依ツテ大隊ノ發砲一挺ナリトモ安寧ヲ我ニ提出セシムル
如ク我ニ方ハアリ爾後ノ行動ニツキ指示セラルヘキヲハ
至急承ハリタシ

附表第一

# 艦隊編成表

第三大隊
九年五月十日調

| | | | |
|---|---|---|---|
| 本部 | 大隊長 少佐 林田座城<br>副官 中尉 安藤善治<br>情報連絡掛 中尉 敷田正外<br>軍事主任 二等 稲垣建一<br>計 一等 酒井喜一郎 | 第九中隊 | 中隊長 大尉 竹内秀三郎<br>小隊長 少尉 谷田助<br>〃 特業 清野英七<br>〃 特業 吉村盛秀 |
| 協力飛行隊 | 六八 機号<br>二二 機号 | | 第十一中隊 |
| | 偵察將校 中島中尉<br>操縱者 蒲野曹長<br>偵察將校 吉濱中尉<br>操縱者 秀軍曹 | | 中隊長 大尉 間宮忠秋<br>小隊長 少尉 坂本力<br>〃 特務 酒井慶三郎<br>〃 特務曹長 東柳逸五<br>（通信下士官） |
| 第十二中隊 | 本部 | 曹長 以下 二十七名 | |
| | 〃 | 曹長 以下 九十八名 | |
| | 〃 | 曹長 以下 九十九名 | |
| 第十三中隊 | 〃 | 曹長 以下 六十名 | |

附表其二

# 佈告文

一、日本軍當地ニ來ルハ何等他意ナシ

二、日本軍ハ公明正大ナル下ハ世界衆知ノ所ナリ民衆

二損害ヲ與フル事等寸毫モナシ

三、宿舍料其他損料ハ必ス支拂フ

四、民衆流言蜚語ニ迷フテナカラン安堵シテ業ニ勤ムヘシ

五、病ニ悩ム者ハ日本軍衛生班ニ於テ無料施療ス

依ツテ何人タルトヲ問ハス速ヤカニ來リ受ケヨ

日本軍司令官

# 朝鮮事件大隊本部編成表

自昭和九年五月九日
至同月十九日

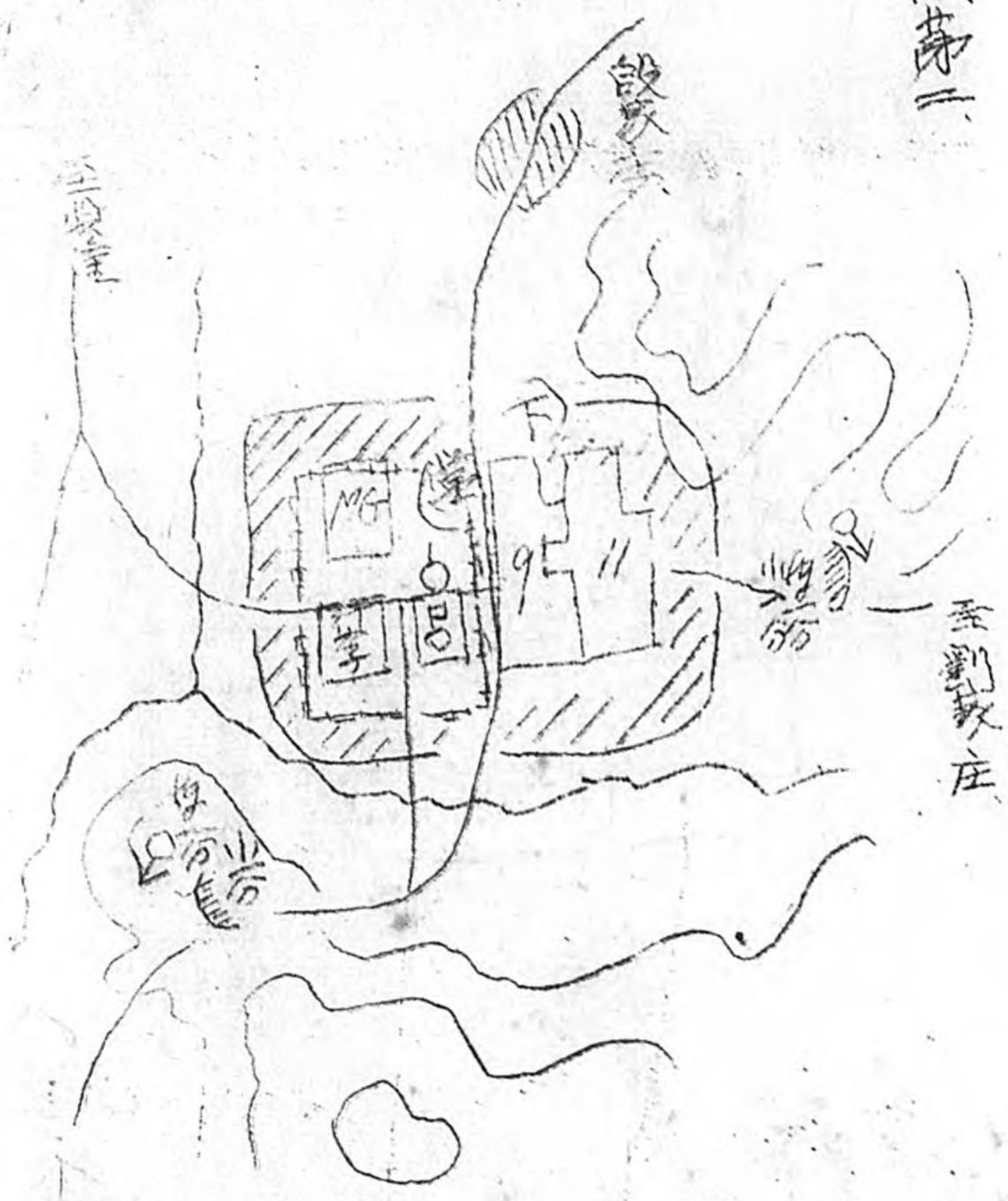
| 職名 | 階級氏名 | 職名 | 階級氏名 |
|---|---|---|---|
| 代理分隊官 | 書長 大島謹一 | 代用新生賛 | 二等兵 水上由之 |
| 書記 | 軍曹 奥田孫志 | 〃 | 〃 末澤行男 |
| 〃 | 〃 皆野武 | 〃 | 〃 阿部勇進 |
| 〃 | 伍長 松井政吉 | 〃 | 〃 石塚久一 |
| 病號 | 伍長 下山長吉 | 〃 | 〃 庄山謙七郎 |
| 大隊旗手 制官備番 | 上等兵 種村太郎 | 〃 | 伍長 齋藤福藏 |
| 〃 | 一等兵 工藤千代一 | 〃 | 二等兵 井田準三郎 |
| 〃 | 二等兵 松本喜四郎 | 〃 | 〃 本田正雄 |
| 〃 | 〃 加藤秀五郎 | 〃 | 〃 入山秀雄 |
| 傳令 | 一等兵 小林八郎 | 〃 | 〃 阿藤二郎 |
| 〃 | 二等兵 星川雄吉 | 〃 | 〃 阿部正雄 |
| 馬取扱兵 | 一等兵 井藤忠七郎 | 〃 | 〃 榮鳳文 |
| 〃 | 〃 高橋英雄 | 〃 | 〃 金賢洙 |
| 軍用犬取扱者 | 〃 小林政太郎 | 〃 | 〃 李壽萬 |
| 無電班長 | 陸兵曹 瀬戸公平 | 〃 | 〃 韓奇七 |
| 無電班員 | 上等兵 玉置門誠 | 〃 | 〃 張海山 |
| 〃 | 〃 寺井松次 | 〃 | 〃 高廣海 |
| 〃 | 〃 佐藤吉雄 | 〃 | 〃 藤益五郎 |
| 〃 | 〃 藏安俊 | 〃 | 〃 玉置遊 |
| 看護長 | 一等 木村金一 | 〃 | 〃 李鉄 |

附図第一、

国要塞住警射法不制那支
（昭九版千日五月五年九）

圖要南取成警察南營下
(近朝八十月五日之夜日九月五)

(付圖第二)



附圖第二ノ一

# 間宮駐在所警戒警備要圖

（昭和十四年五月二日夜間警戒）

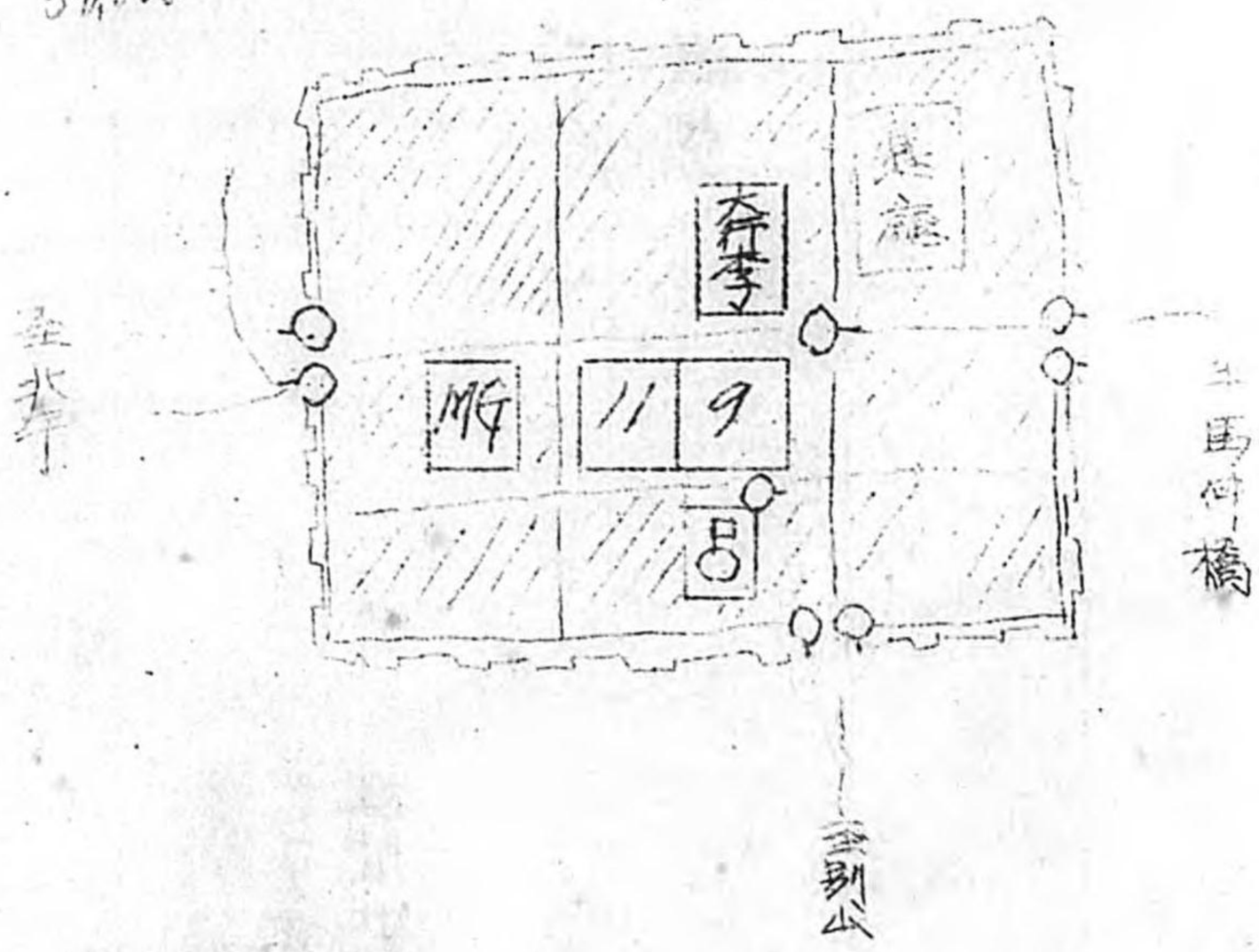
附圖第三

# 莉寮宿營要圖

（自五月十日至五月十八日）

N 月 1/50,000

豊隆関



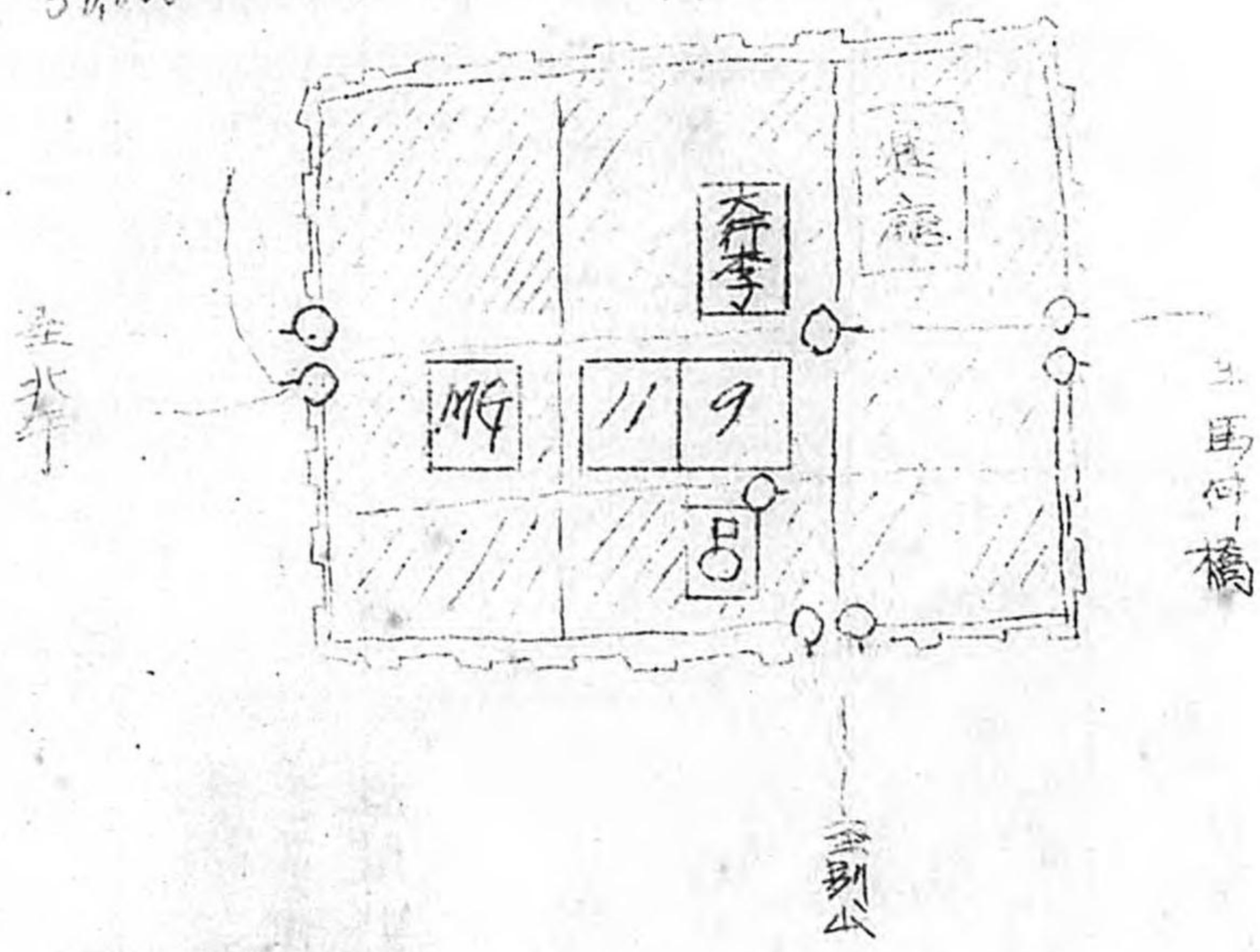
附圖第三

# 薬剤宿営要図

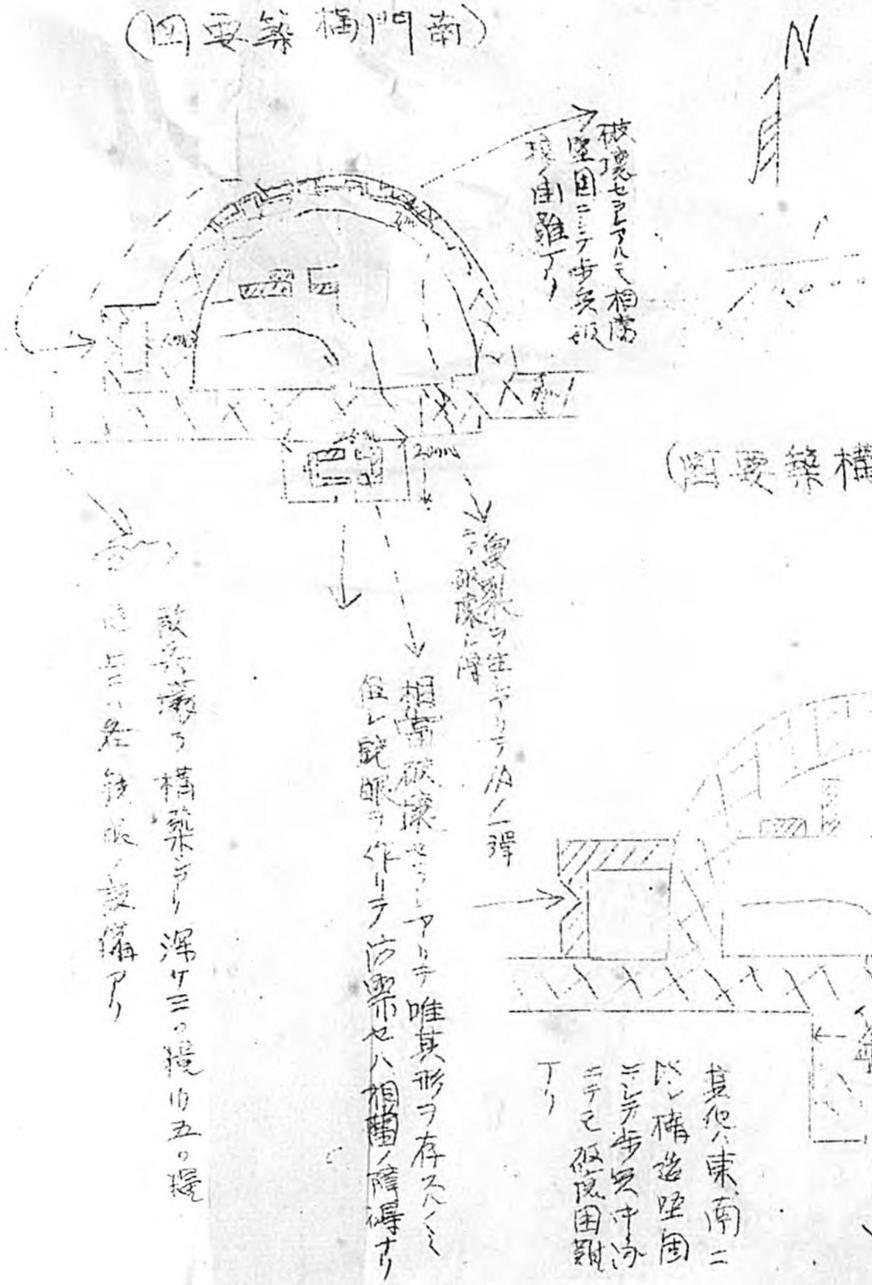
（自五月十四日至五月十八日）

N 1月 1 / 50,000

豊橋関

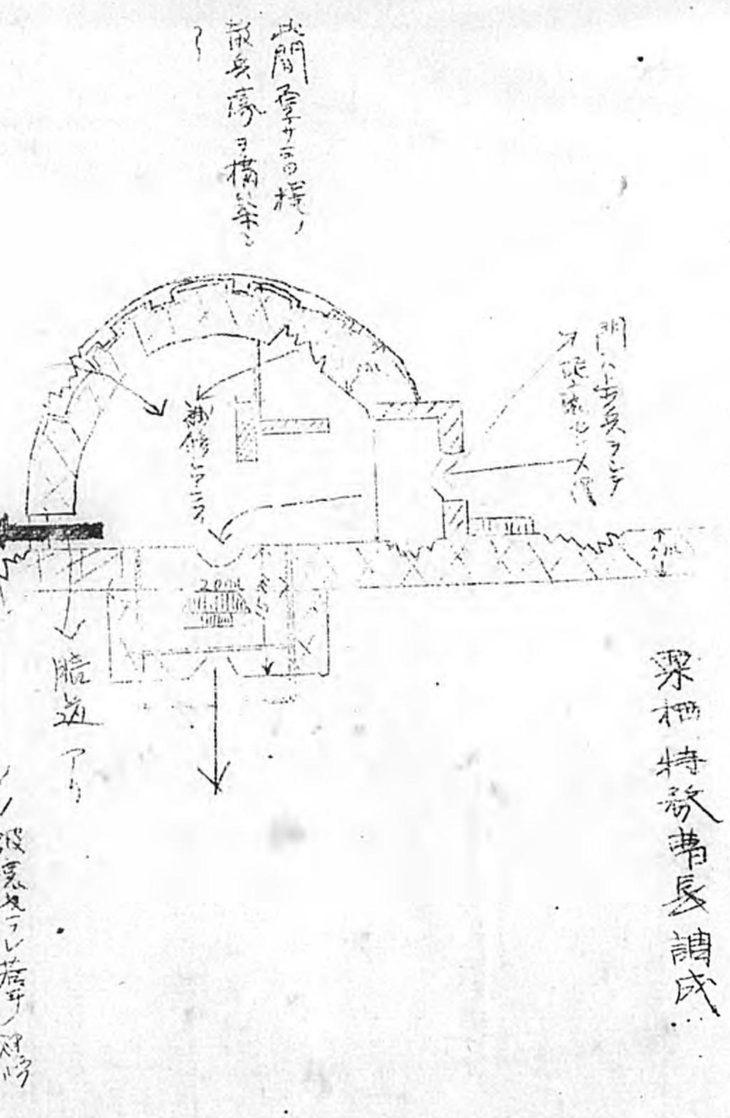


(図要築構門南)




(図要築構門西)

(図要築構門東)




栃木特務曹長調成

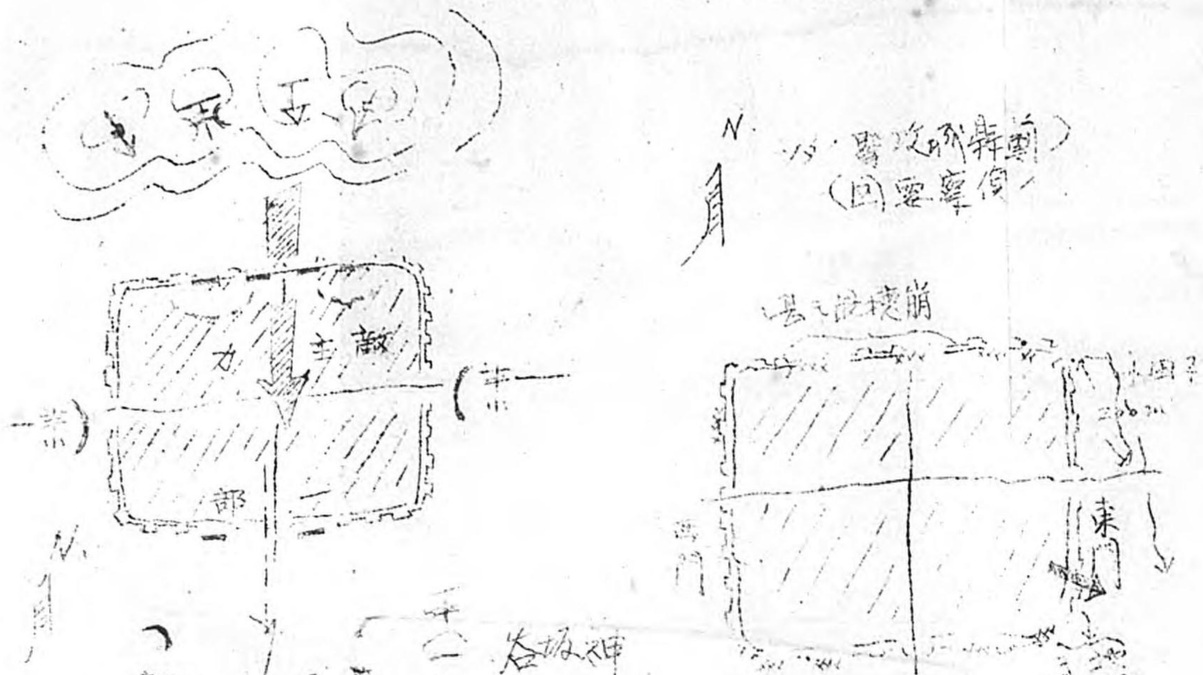
吉松特務曹長
酒井特務曹長 報告者

一、判決

一部ヲ以テ各城門ヲ監視シ逃避及ビ撃ヲ警戒シ主力ヲ以テ北方圍壁崩壊箇所ヨリ突入スルヲ要ス

二、各城門附近ハ圍壁最モ堅固ニシテ高サ約十米、五米乃至九米圍壁ノ構造ハ外圍ハ鉄板、中ハ全部黄土石城門ヨリ突入スルハ不利ナリ

三、圍壁ノ破壊箇所ノ外側ニ既設散兵壕アリ然シ射撃設備ナシ深サ約一米五ノ由入口ノ幅乃至一米三ノ外側ノ壕ニ對シ地下通路トシテ工事ヲ施シ利用シ得ル


敵
部
N
崩壊箇所
東門
南門
城壁
城門
城壁
城門
城壁
城壁
城壁

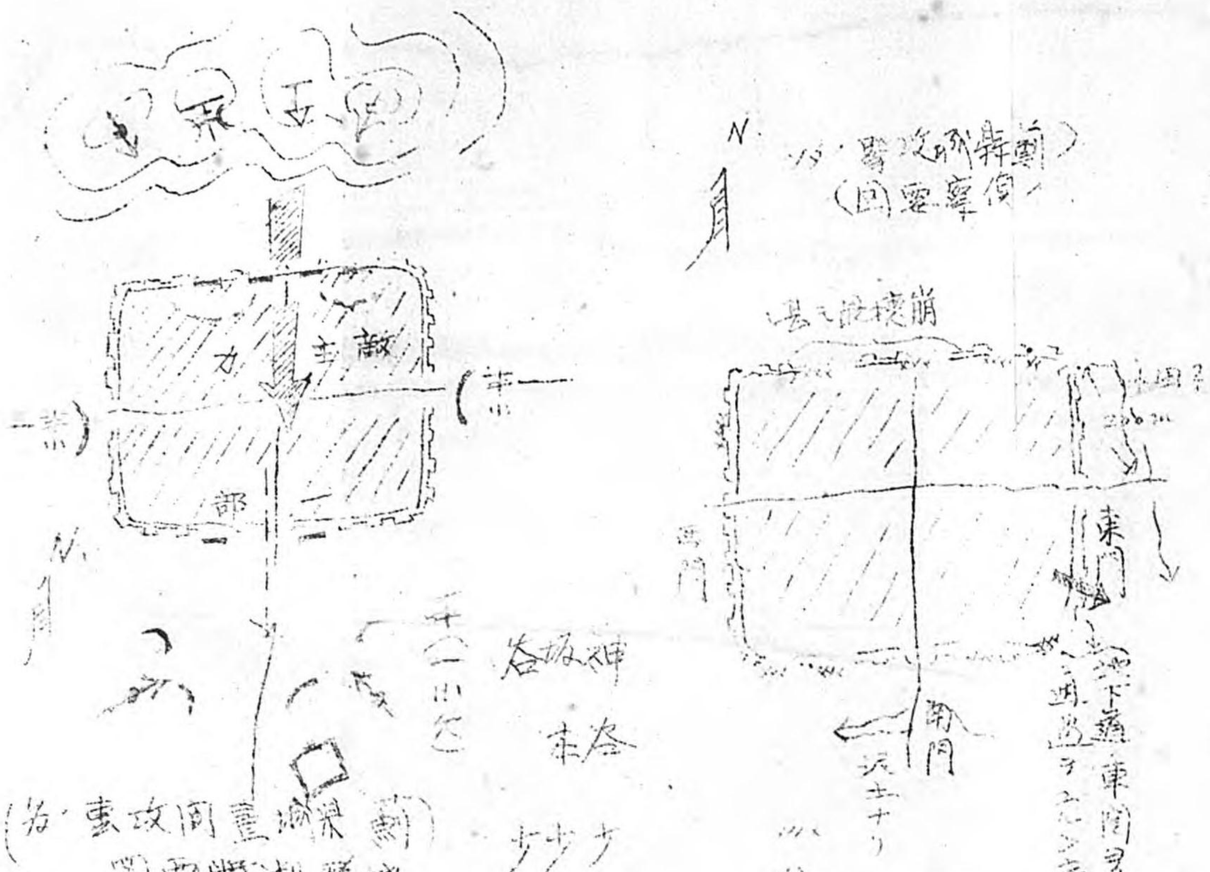
吉松特務曹長ノ報告者
酒井特務曹長ノ報告

一、判決

一部ヲ以テ各城門ヲ監視シ進出及射撃ヲ警戒シ主力ヲ以テ北方圍壁崩壊箇所ヨリ突入スルヲ要ス

二、各城門附近ハ圍壁最モ堅固ニシテ壁高サ約十米、五米乃至九米、圍壁ノ構造ハ外圍ハ鉄筋、中ハ全部黄土ニシテ城門ヨリ突入スルハ不利ナリ

三、圍壁ノ破壊箇所ノ外側ニ既設散兵壕アリ然シ射撃設備ナシ深サ約一米五〇ノ壕ノ場合ハ外側ノ壕ニ對シ地下道ヲ工事シテ利用シ得ル




神谷坂本少尉報告

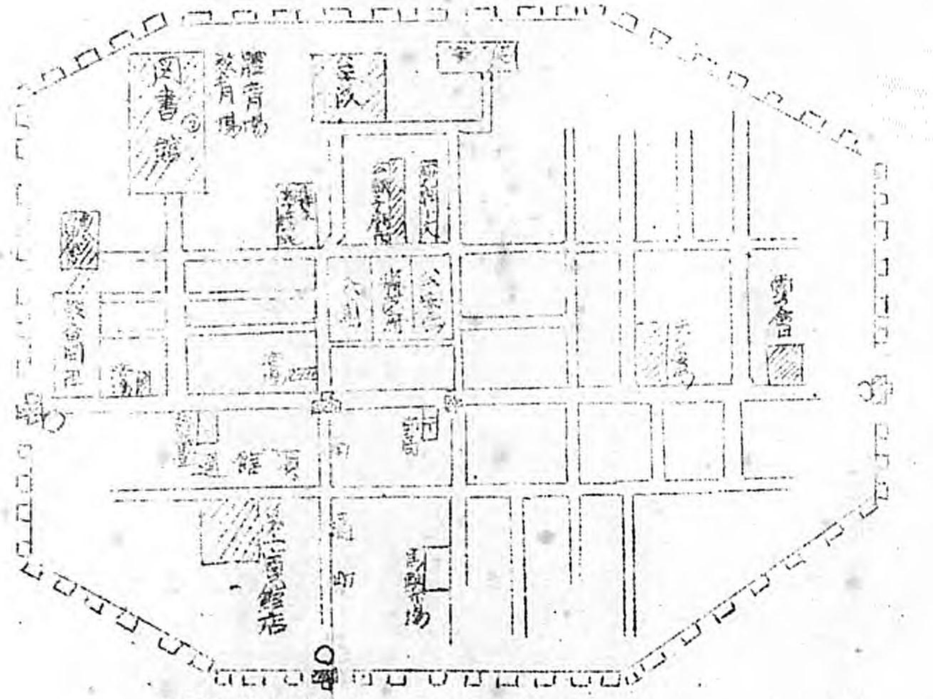
敵ハ一部ヲ以テ一番西門ヲ制シ主力ヲ以テ北側崩壊部ヲ有利ニ撃ス敵ヲ南門ニ圧迫殲滅スルヲ要ス

# 蘭縣城內主要建築物位置圖

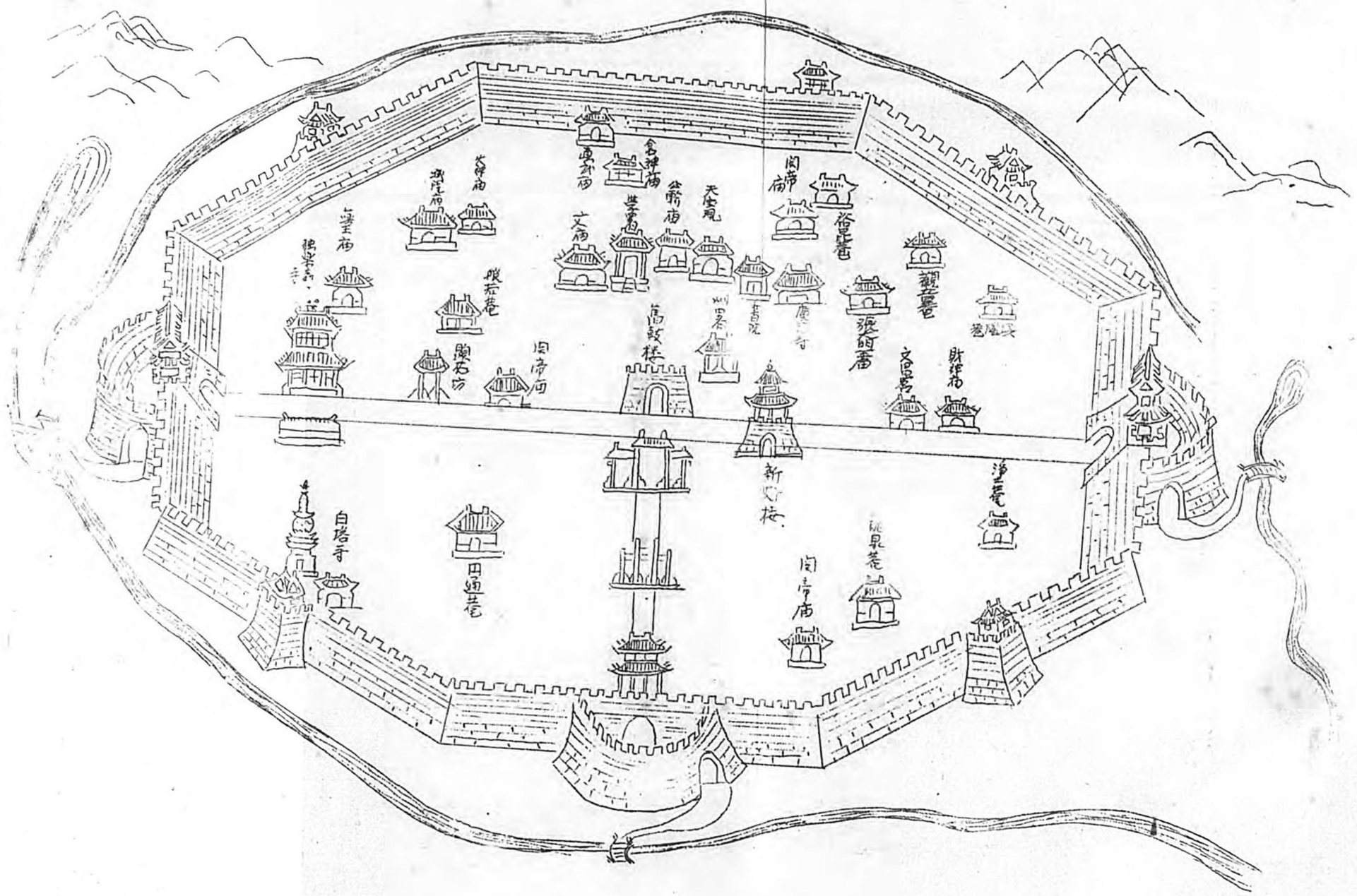
（昭十二年五月十八日午後五時調査）

N

1/10000


郵便局
公會堂
公園
公會堂
公園
公園
公園

# 薊縣城新圖


關帝廟
觀音菩薩
財神廟
文昌宮
張飛廟
鼓樓
新橋
泉菩薩
關帝廟
白塔寺
田通菩
關帝廟
關帝廟
天仙觀
倉神廟
文廟
菩薩廟
娘娘廟
關帝廟

酒井栗栖西将校作候行動詳報

五月十一日午後九時三十五分左記要旨ノ大隊命令ヲ受領ス

左記

酒井特務曹長ハ将校作候トナリ兵十名通譯一ヲ指揮シ下營東方四吉米劉家庄方向ニ前進シ便衣隊ノ有無ヲ捜索スベシ

右ノ命令ヲ受領スルヤ酒井特務曹長ハ直ニ部下ヲ選定シ午後九時三十分下營ヲ出發シ先ス東方二吉米無名部落ニ到着シ鄉長ヲ尋ネ左記事項ヲ試問ス

1. 本夜当部落ニ旅ノ者宿泊シアリ若シ其宿舎何シナリヤ

2. 然ラハ本夕刻便衣隊六七名此ノ部落ヲ通過シタ若シリ承知シアリヤ

3. 今カラ日本軍ハ此ノ部落ヲ捜索スルカ差支ナキヤ若シ捜索ノ結果便衣隊ヲ發見シタルトキハ日本軍ニ対シ虚偽ノ申出ヲナシタルモノト認ムルカ差支ナキヤ

4. 才前ハ今ヨリ直ニ部落内ヲ捜索シ便衣隊ノ宿舎ヲ下營ニ在ル日本軍ニ密告セハ相当ノ褒賞ヲ與フルモノナリ

右ノ要旨ヲ傳ヘ鄉長ノ家ヲ去リ本道ニ出ニントスルヤ別紙要図(イ)ヨリ突然数發ノ射撃ヲ受ケ續テ(ロ)ヨリ又数發ノ射撃ヲ受ケタルモ作候ハ之ニ應戰スルコトナク暫ラク其地ニ停止シ状況ノ偵知ニ努メタルニ其後敵ハ射撃ヒサルヲ以テ取敢ス兵二名ヲシテ現在ノ状況及作候爾後ノ行動ヲ大隊長並ニ中隊長代理タル坂本少尉ニ報告セシム

作候ハ續イテ前進スルコト約五百米部落ノ村端ニ出テントスルヤ又数發ノ射撃ヲ受ケタルヲ以テ敵兵カノ捜索ニ努メタルモ暗夜ノタメ偵知スルヲ得ス此ノ時鄉長及一名ノ支那人来次第

ヲ申出テタリ。
之ヨリ約四五百米前方ニハ匪賊多数アルヲ以テ之ヨリ前進ハ危険ナルヲ以テ下営ニ帰ルヲ可トスト
右ノ言ニヨリ郷民ハ敵便衣隊ニ買収サレアルモノト判断シ
次ノ事ヲ言明セリ、何ニヲ言フカ、日本軍ハ匪賊ヲ恐レルモノ
ニアラス、トテ郷民ノ中出ヲ一蹴シテ前進ス、時ニ午後十
時十五分ナリ、次イテ国境迄ノ前方ニ達スルヤ(二)方向ヨリ
猛烈ナル射撃ヲ受ケタルヲ以テ午候ハ直ニ散開シ之ニ應戦
ス、銃声ヨリ察スルニ敵ハ約二十名位ニシテ距離二百米ト
判断ス、午候カ射撃ヲ開始スルヤ敵ハ退却セリ
此ノ時ニ於ケル發射弾、軽機関銃六十発小銃三十
發ナリ、敵是却スルヤ部落ハ俄ニ騒ヌシキ物音起リ
タルヲ以テ速ニ部落ヲ捜索セルニ、相当ノ集団部落ナルコ
トヲ知ルヲ得タリ依ツテ、部落方向ニ対シ警戒ヲ厳ニシ
且敵ノ兵カ偵察ニ努カム

吾ニ射撃セシ敵ハ便衣隊ニシテ尚地方ノ自警団等ヲ
買収シアルモノノ如シ其兵カ不明ナルヲ以テ、明朝攻撃スル
ヲ有利ナリト信シ此ノ状況ヲ大隊長ニ報告ヒニカタメ帰
途ニ付ケリ
帰途、應援ノタメ派遣サレタル栗栖特務曹長ノ指揮スル
小銃一分隊軽機一分隊(合計十名)ノ援隊午候ト(ハ)(二)班
近ニ於テ合スルヲ得タリ時ニ午前零時ニ十分ナリ
両午候協定ノ結果同部落ヲ攻撃スルニ決シ再ヒ同
部落ニ向ヒ前進ス、両午候協力ノ上同部落ニ進入スルヤ
敵兵及部落民ハ殆ント逃走シアリシモ種々捜索ノ結
果二名ノ住民ヲ取押ヘルコトヲ得テ、之ニ依リ状況ヲ偵
知スルニ敵ハ前縣方面ヨリ来リタル保安隊員及ビ
自警団ニシテ鉄盧ヲ満方向ニ退却セリト
依ツテ両午候ハ部落ヲ占領シ鉄盧ヲ満方向ニ対シ厳

ヲ申出テタリ

之ヨリ約四五百米前方ニハ匪賊多数アルヲ以テ之ヨリ前進ハ危険ナルヲ以テ下営ニ帰ルヲ可トスト

右ノ言ニヨリ郷民ハ敵便衣隊ニ買収サレアルモノト判断シ次ノ事ヲ言明セリ、何ニヲ言フカ、日本軍ハ匪賊ヲ恐ルヘキモノニアラス、トテ郷民ノ申出ヲ一蹴シテ前進ス、時ニ午後十時十五分ナリ、次イテ團主ヲ前方ニ達スルヤ(二)方向ヨリ猛烈ナル射撃ヲ受ケタルヲ以テ斥候ハ直ニ散開シ之ニ應戦ス、銃声ヨリ察スルニ敵ハ約二十名位ニシテ距離二百米ト判断ス、斥候カ射撃ヲ開始スルヤ敵ハ退却セリ

此ノ時ニ於ケル發射弾、軽機関銃六十発、小銃三十発ナリ、敵退却スルヤ部落ヲ捜索セルニ、相当ノ集團部落ナルコトヲ知ルヲ得タリ依ツテ部落方向ニ対シ警戒ヲ厳ニシ且敵ノ兵カ偵察ニ努カム

吾ヲ射撃セシ敵ハ便衣隊ニシテ高地方ノ自警團等ヲ買収シアルモノノ如シ其兵カ不明ナルヲ以テ、明朝攻撃スルヲ有利ナリト信シ此ノ状況ヲ大隊長ニ報告ヒニカタメ帰途ニ付ケリ

帰途、應援ノタメ派遣サレタル栗栖特務曹長ノ指揮スル小銃一分隊軽機一分隊(合計十名)ノ捜索斥候ト(二)班近ニ於テ合スルヲ得タリ時ニ午前零時三十分ナリ

両斥候協定ノ結果同部落ヲ攻撃スルニ決シ再ヒ同部落ニ向ヒ前進ス両斥候協力ノ上同部落ニ進入スルヤ敵兵及部落民ハ殆ント逃走シアリシモ種々捜索ノ結果二名ノ住民ヲ取押ヘルコトヲ得テ、之ニ依リ状況ヲ偵知スルニ敵ハ第一剿匪縣方面ヨリ来リタル保安隊員及ビ七ノ自警團ニシテ鉄盧ヲ満方向ニ退却セリト

依ツテ両斥候ハ部落ヲ占領シ鉄盧ヲ満方向ニ対シ厳

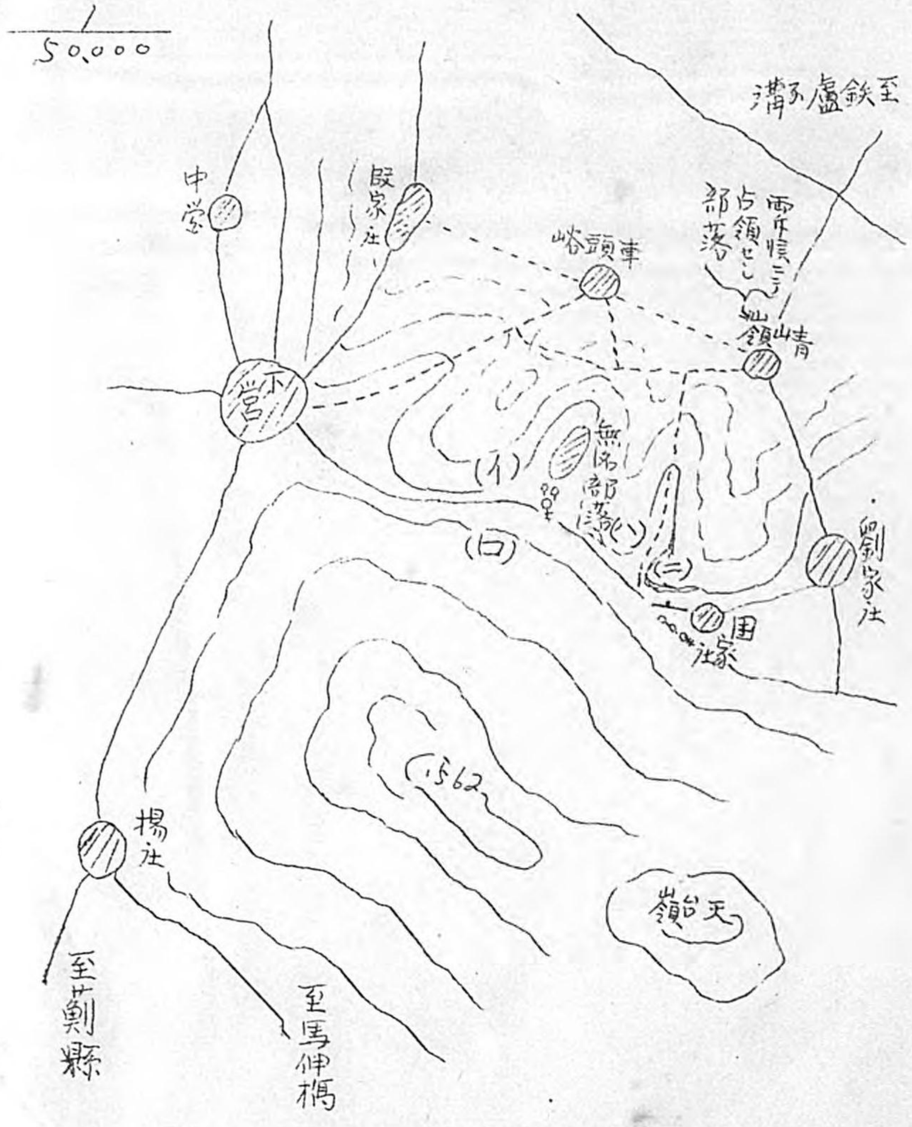
ニ警戒スルト共ニ郷長及有力者宅ヲ捜索セシモ既ニ逃走シ不在ナリキ

而テ候ハ右ノ状況及テ候爾後ノ行動(青山嶺ヲ占領シ警戒捜索ヲ続行ス)ヲ兵ニ右ヲシテ大隊長及ビ中隊長代理坂本少尉ニ報告セシム、時ニ午前一時四十分ナリテ候ハ引続キ警戒並ニ捜索ニ任シアリシモ状況ニ変化ナキヲ認メ午前三時三十分警戒ヲ撤シ取押ヘタル丈那人ニ右ヲ連行シ下宮ニ復帰ス

午前五時大隊本部ニ到着シ詳細報告スルヲ得タリ

終リ

下宮附近要図



73 午前八時無電ニ依リ師団長、旅団長、聯隊長ニ左記通報ス

(一)前橋自衛団ハ交渉ノ結果自発的ニ昨十五日軽機二ヲ提供セリ之ニ関係アル馬伸橋自衛団ニ対シテハ稍〻強制的ニ交渉シ砲弾及小銃弾ヲ徴収セリ

保安隊ノ兵器ハ未タ回答ナキモ十七日中ニハ可否決定ノ見込ナリ

(二)保安隊ノ密使ヲ捕ヘ其所持ノ書類ヲ調査セルニ目下戦区各方面ニ亘リ兵器ノ隠匿ニ関シ各〻連絡ヲナシツツアリ

此際戦区内ヲ一巡シ兵器引上、撤去ヲ速カニ實施スルヲ可トスルノ意見ヲ具申ス (大隊長)

74 午前十一時十分師団長ヨリ無電ニ依リ左記通報アリ

本日貴地ノ天候並ニ飛行ノ成否ニ急迫アリタシ (師団長)

75 午后六時無電ニ依リ師団長ニ報告ス

當地天候良好ニシテ飛行機差支ナシ (大隊長)

76 午前十一時四十分歩兵第二十四作業第十八號ヲ下達ス